

第6次大牟田市総合計画 まちづくり総合プラン(案)に関する
審議会での意見・要望

I 計画策定の意義

意見・要望はございません。

II 計画の位置付け及び期間

意見・要望はございません。

III 大牟田市総合計画 2006～2015 のふり返り

- (1) 改善していく意志を示すためにも、重点的課題を記載したほうがよいのではないか。
- (2) 2016～2019年に大牟田市が主体的に行ったことは何か。また、事業全てが順調に見え、できたこと・できていないことがわからない。
- (3) 「はぐくみ」において、「文化芸術に触れる機会」という記載があるが、若い人たちが主体的に取り組んでいるもの(高校生によるプロモーションビデオの制作やダンスチャレンジ等のイベント)もあるので、そのように記載したほうが良いのではないか。

IV 本市を取り巻く社会背景と課題

- (1) 「観光のインバウンド対応を図ることが必要である」と記述すべきではないか。また、交流人口の増加のために観光事業の強化を記述したが良いのではないかと考える。市の観光基本計画は、平成14年のままであり、国が観光立国を打ち出す中、世の中の流れから遅れている。

V 目指す都市像と基本目標

- (1) 都市像は目標年次を設定しないとあるが、中長期の期間設定は必要ではないか。

- (2) 都市像達成の度合いを計るためには、人づくりの指標が必要ではないか。

Ⅵ 人口

- (1) 特定の国籍の人に限らず、様々な国籍の人に、より多く大牟田市に来て住んでいただきたいと思う。
- (2) 「出産を担う世代の人口減少の緩和」や「若い世代に如何に大牟田市に住み続けてもらう」ための取組みは、継続して取り組んでいただきたい。
- (3) 出産と子育てはワンセットと考える。出産後は男性のサポートは重要であり、成果指標に男性が子育てに関わるものも検討する必要があると思う。
- (4) 外国人の対応としては、技能実習生が就業期間に妊娠出産する可能性もあるなのでその対応も考えるべきである。
- (5) 他自治体では条例の制定等も進んできている同性婚についての視点も持つ必要があると思う。

Ⅶ 土地利用の方向性

- (1) 耕作放棄地が増えているのは高齢化や人口の減少が原因と思う。市街化調整区域については農業以外では売買しにくく、この縛りがある以上、「地域の実情に応じた計画的な土地利用」の実現は難しいのではないかと。そういったことへの対策も盛り込んでおいてほしい。
- (2) 人口減少が進む中、国が示す「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の観点のみならず、大牟田市の実情に沿ったコンパクトシティのあり方を検討する必要がある。

その他

- (1) 総合計画というとなんでもかんでもになりがちだが、取り組む事業には優先度も考慮しなければ4年間という短い期間では結果が見えてこないと考える。

- (2) まちづくり総合プラン基本構想の構成については、課題を示して、その解決のための事業のふりかえりとしたほうが分かり易いとする。
- (3) 価値観の多様化をふまえ、満足度と重要度だけでなく、福岡県が採用している「幸福実感度」も指標の一つとして検討いただきたい。
- (4) 地域商社の設立やふるさと納税の活用など、まち全体で収入を得ていく方向性が必要とする。
- (5) 市民意識調査では「子育て」「教育」「産業の振興」はいずれも重要度が高いが、一方でスポーツや文化は極端に低い。まちが発展し豊かになることも必要だが、人が豊かに暮らすにはスポーツや文化も大事。基本目標の1～3にもかかることであり市民の意識を上げていくことが必要。
- (6) 小中学校の学力について示されていないのはなぜか。福岡県内は公表していないのか。保護者としては、やはりランキングが気になると思う。
- (7) SDGs を達成するためには、企業に対しての補助が必要だと思う。また、ダイバーシティーやCO₂削減等を担うのは企業ではないかと思う。
- (8) 計画の中にテクノロジーの恩恵を盛り込んでいただきたい。地域交通はコミュニティバスのような人とのつながりも大事だが、自動運転等の実証実験の積極的な誘致をお願いしたい。
- (9) 30以上の自治体がRPA等の実証実験を行っている。大牟田市も単純な事務処理等はテクノロジーを活用し、その恩恵を受けるよう積極的に取り込んでいただきたい。

Ⅷ 都市像実現のために4年間で取り組む施策

1編 はぐくみ 「未来を拓く人がはぐくまれています」

第1章 安心して子どもを産み、育てることのできるまち

- (1) はぐはぐ Oomuta は、とても良い制度なので、地域包括支援センターのように各地区公民館にも設置されることを期待する。
- (2) 「安心して子どもを産み育てられるまち」となるには、行政が今以上に出産支援や育児支援に積極的に取り組み、それを発信することが必要と考える。
- (3) 子育てを学ぶ機会の充実とあるが、大牟田市には動物の命を大切にしている動物園があるので、動物園を使った学習を考えてはどうか。
- (4) 待機児童ゼロであっても、保育の質が低下してはいけない。特に学童の支援員は常に人手不足であるため、市としても支援などの対応をしてほしい。
- (5) 子育てと仕事の両立には病後児保育が不可欠と考える。
- (6) 出会いの機会の創出に向け、民間でどのような取り組みが行われるかを把握した上で、積極的に取り組んで欲しい。

第2章 持続可能な社会の創り手を育成する学校教育が充実しているまち

- (1) ESD については広報等で確認できるが、ESD の取り組みを学校で取り入れてから何年か経っており、子どもたちが様々な経験をする中、子どもたちがどのように変わってきたのか。そうした PR もお願いしたい。
- (2) 小学校から英語教育を開始しているが、中学校に入ってからからの学力は以前と比べ上がっているのか。小学校から英語教育を行うことで、発音や学習の呑み込みも早いのではないか。
- (3) 中学校において高校を選ぶ際など、キャリア教育として様々な職業に就いた大人と対話できる時間がもっとあればと感じている。インターン、職場体験もあるが、もっと日頃からマッチングを行えるよう、行政と商工会議所

などで取り組みを強化してほしい。

- (4) 中学校から市外に出たり、高校で市外に出たりと、大牟田市を離れている現状がある。できるだけ、高校までは大牟田市で教育を受けて欲しいので、魅力ある学校教育として充実させてほしい。小中学校の連携にとどまらず、難しいかもしれないが、PTAなどを巻き込み一歩進んで中高連携にチャレンジしてもらいたい。
- (5) 子どもの数が減少する中、学校再編時に不安があり、私立中学に進学する家庭もあった。その不安を取り除くことも課題と考える。
- (6) 少子化の中において、この施策は大変重要であり、市の予算も重点的に配分する必要があると考える。ICTの活用も重要。
- (7) 最近クローズアップされている引きこもりの原因は、子どもころからの教育の大切さが関係していると感じる。いじめや不登校を含め、十分な対応をお願いしたい。
- (8) ヨーロッパの小学校では日本よりも地域との連携は進んでいる。地域人材を活用して保護者の気持ち（負担）を軽減していくことが必要。地域にお住いの方々は様々な人生経験者であり、もう少し地域に委ねてはいかがか。

第3章 専門的な教育の機会が確保され、高等教育機関等との連携や交流が進むまち

- (1) 市内の学生が取得した特許をどう活用するかという施策が必要ではないか。
- (2) 帝京大や高専はボランティア活動が盛んで、観光協会等と協力して事業をやることも増えてきた。学生たちにさらに情報提供がなされることを願っている。
- (3) 市内の高等教育機関等の卒業生たちが、大牟田市で就職して、結婚、子育てをし、老後も安心して暮らせるよう、しっかりと取り組んでいただきたい。
- (4) 大牟田市の中高生に看護師になる道があることを認知してほしい。

第4章 未来に向けて、ともに学び、地域で行動する人がはぐくまれるまち

- (1) 公民館に子ども会があるが、公民館加入率も下がってきているし、何かイベントをしても子どもの参加があまりない。参加の後押し等を行政で何か出来ないだろうか。
- (2) 地域の取組みに参加する子どもは公民館加入世帯の子どもがほとんどで、なおかつ、手伝いに来る保護者やボランティアの人も同様に公民館役員ばかりの状況である。もう少し保護者に浸透させ、多くの子どもの参加を促してほしい。
- (3) 高校卒業後、就職や大学進学で県外に移り住む構図があると思うが、Uターンしてもらい、就職・結婚・子どもを育んでもらい老後を過ごしてもらうことを念頭に、もっと大牟田市に移住・定住するメリットを打ち出し、大牟田市の魅力を示す必要があると考える。
- (4) 子育て世代への支援が脚光を浴び、人口が増えている自治体がある。そのような自治体の取組みを研究し、事業の組み立てを考える必要があると考える。
- (5) ESD は地域の中での活動が根本になるが、ESD を理解している人が少ないのではないかと感じる。ESD の取組みを広げていくために、実際の活動を通じて説明していくとか、もう少しわかりやすい言葉で置き換えていくといった工夫をして頂けないか。
- (6) 視点1には、大蛇山祭りなどの様々なイベントを通じて子どもをはぐくむという意味を込めて、固有のイベント名を入れても良いのではないか。

第5章 スポーツを通して生きがいに満ち、活気にあふれるまち

- (1) 健康づくり市民大会やチャレンジデーなど、様々な取組みを行っているかと思う。具体的なイベントを書き込んだほうが、市民にも分かりやすいのではないか。
- (2) 第5章は、市民が健康に過ごして明るく、ということが趣旨かと思うが、スポーツを通してどのようなまちづくりをしたいかという未来像まで記載

したほうがいいのではないか。

- (3) 体育館など施設が老朽化する中、スポーツツーリズムやスポーツ大会誘致など、遠方から人を呼び込み、外貨を稼いで、交流人口も増やしていくといった、スポーツでまちづくりを行っていく視点も重要であると思うので、いろいろな制約があるのだろうが、そこをお願いしたい。
- (4) スポーツを通じて子どもたちがワクワク感を持つことで、未来が明るく見えるようになるだろうと思う。子どもたちの未来に向けて皆がワクワクするような事業を考えてほしい。
- (5) 体育館をはじめ、スポーツ施設の老朽化も進んでいる。予算の制約はあると思うが、体育館は災害時の拠点となるべき施設でもあるので、しっかりと対応されたい。

第6章 文化芸術に親しみ、心豊かに生活できるまち

- (1) 文化財に登録されていない所や神職がいないところでも、特徴のある神社仏閣が本市にはたくさんあるので、注目していただければと思う。
- (2) 世界遺産登録から3年が経過し、日本全国各地で世界遺産が増えてきている。大牟田市の風土を活かしたイベントなど、今後の展開について、地域と一緒に頑張っていただきたい。
- (3) まちづくり市民アンケートの結果で、文化芸術が大事だと思う人の割合が少ない。その意識をどのように変えるかが課題だと考える。
- (4) わくわくシティ基金を活用した事業が創設されたと聞いているので、特に若い人を育成する部分に明かりがあたるようにしていただきたい。
- (5) 大牟田市では日本フィルの演奏会等があり、音楽が盛んな印象だが、若者が音楽を演奏できる場が減ってきたという声も聞かれる。文化会館の旧レストランだった場所で若者が安価に演奏できるようにしていただきたい。

第7章 一人ひとりの人権が尊重され、男女が生き生きと暮らすまち

- (1) 女性参画の推進に向け、今後も引き続き頑張りたい。

- (2) 地域では、現在でも女性に対する古い考えを持つ人が多いと思う。女性に対する考え方が変わるように、地域等への意識啓発を行っていただきたい。
- (3) 今でも男性に比べると女性の収入は少なく、DV被害も多い。表に出て活躍する人への支援はもちろんだが、そうではない人への支援を今後もお願いしたい。
- (4) 国や県主催の男女参画の研修などに、市職員も市民と同じ立場で参加し、ともにレベルアップしていただきたい。

2 編 にぎわい「地域の宝が活かされ、にぎわいのあるまちになっています」

第 1 章 企業・産業が発展し、活力あふれ成長するまち

- (1) オープンイノベーションなど、企業に挑戦を促すプログラムを用意していくべき。個々の企業向けの支援ではなく、プロジェクト型の創業に対する支援。創業により雇用を創出したり、イノベーションを起こすような企業を育成してほしい。
- (2) 現況と課題で、入国管理法や外国人労働者のことについて触れられているが、それに対応する視点がないのでバランスが取れていない。今後検討していくなど、視点に記載しておくべきではないだろうか。
- (3) 企業誘致はやみくもに誘致してもうまくいくことはない。他都市を参考に、大牟田市ならではの特色やウリを打ち出し、企業進出が連鎖するよう取り組まれたい。
- (4) まちづくり人材というような言葉を使わないようにしてはどうだろうか。言われたことをやるだけではなく価値をつくっていくような作業（をしていく人）としてはどうかと思う。
- (5) 視点 4 について、人材確保を意識されたことは感じられるが、今までの延長線上で続けてもうまくいかない。人材確保は大きな課題。他の自治体とは余程違うことをやらないと、優秀な人材は残っていかないだろう。
- (6) 第 1 章の現状と課題の 5 点目の新規就職者の内 2 割しか大牟田市に残ら

ないことについて、政策推進の視点での的確な対策が見られない。

- (7) 第1章の現況と課題の7点目のコンテナ貨物の9割が輸入となっていることについて、積極的な対応が感じられない。
- (8) 第1章について、もっと従来の方法+地元企業を親御さんにPRする方法を検討する必要があると思う。

第2章 人ともものが行き交い、にぎわうまち

- (1) 世界遺産など大牟田市には観光資源がたくさんあるので、市も稼ぐ手段のひとつとしてインバウンドに力を入れて稼いでほしい。
- (2) 交流人口の増加は大牟田市における消費の拡大を意味している。消費の拡大のためには、観光消費の7割を占めると言われている宿泊・飲食の整備が必要。
- (3) 店頭で足を運ぶ人は今後減ると考えており、減っているからこそ販売形態が多様化していると考え。インターネット販売の方法がわからない高齢者へのサポート等があればいいと思う。
- (4) 第2章の地域資源のブランド化について何をどんなブランド化を図ろうというかわからない。特産品や観光商品開発は、地域資源のブランド化にはならないのだろうか。観光基本計画の見直しは今回の一番の施策であるので、もっとアピールしないといけないと考える。
- (5) 大牟田市動物園が映画の舞台になったことや、約23.6万人来ていただいていることから、手を打っている政策を少しアピールして載せた方が良くと思う。
- (6) 第2章の現況と課題の6点目、多様化する商業社会について、視点を変えて深掘り販売の考え方は良いが新しいシステムを活用した工夫が必要と思う。
- (7) 大牟田駅に大画面のパネル等を設置し、動物園や世界遺産等の市のPR動画を流すことで、観光客に対してより大牟田市をPRできるのではないかと考える。

第3章 豊かな自然を活かした魅力と競争力ある農業・漁業のまち

- (1) 現代は競争よりも共創の時代であり国も取り組んでいる農福連携に、全国でも高齢化率の高い大牟田市が率先して取り組むべきではないか。
- (2) 視点1に、担い手の育成・確保と経営力の強化、新規就農者が安心してとあるが、まったくもって支援と呼べるサポート体制ではないと感じる。
- (3) 第3章視点2の生産基盤整備の推進について、そもそも道が無く陽当たりなどの立地が悪い場所の整備をしたところで、担い手がない現代に農業が増えるとは到底考えられない。また、全てにおいて、何割かの補助金を出すような対策しかなく、基本的・根本的な本質の部分を改善するような視点が一つもあげられていない。環境に対することが一つも書かれていないのが残念である。
- (4) 第3章の現況と課題の3点目、漁業環境の改善を図るとともに漁業施設整備等への支援について、もっと積極的なかわりが必要だと感じた。
- (5) 海苔の養殖では、大量のはたき海苔（低品質海苔）が発生するため、その処分や利活用方法について、専門家を交えて検討されたい。
- (6) イノシシ対策として、個人が電気柵を設置する際の補助は効果的ではなく、根本は竹林が荒廃していることが原因と考えられるため、何かの対応が必要ではないか。
- (7) 有害鳥獣対策や農業者の所得向上について、新規就農者も一緒に取り組めるような新しい取り組みについても、視点等に入れていただきたいと思う。

3編 やさしさ「支えあい、健やかに暮らせています」

第1章 地域の中でお互いに見守り支え合う、やさしさあふれるまち

- (1) 認知症サポーター養成講座は、地域住民を中心に受講が進んでいるが、学校や企業にも広げていくなど、もっと充実させてもいいのではないか。多くの市民が認知症の理解をもっと深められる機会を、色々な場で広げていくことが必要。

- (2) 「多様な主体」という表現について、初めて総合計画を読んだ市民には分かりづらいのではないかと。最初の主体の後に括弧書きで補足をするなど工夫が必要かと思う。
- (3) 地域包括ケアシステムのことを述べるのであれば、概念図などを入れると市民にも分かりやすいかと思う。
- (4) 引きこもりのことは、本章に示す課題の中に含めるのであれば、言葉として出てきたほうがいいのかと思う。関係部署や県とも連携・協力して頂きたい。
- (5) 大牟田市は「高齢者に優しい福祉のまち」として注目されているが、福祉関係者以外ではまだ、このことを知らない人も多い。大牟田方式と言われるほどの有名な取組みがあるので、福祉関係者に限らず、市内外に向けたプロモーションが必要と考える。
- (6) 民生委員や児童委員、社会福祉協議会の存在を知らない人もいないだろうか。大牟田市においてそうした方々がどのような取組みをされているかを情報発信していかないと、内々での取組みで終わっているのではないかと感じている。

第2章 生涯にわたって健康で元気に暮らせるまち

- (1) 平日時間外小児急患診療体制や休日急患診療体制の維持が難しくなっている現状にあるが、市民はあまり知らないのではないかと危惧している。そのような状況をもっと市民に発信すべきである。
- (2) 大牟田市出身者で医者になる人材においてはかなり少ない印象だが、医者がいなくなればまちの医療が衰退すると考える。大牟田地域健康推進協議会が主催する毎年9月上旬の「みんなの健康展」のような医療情報を発信できる環境やツールはそろった市であると思うので、子どもたちが医療業界への関心を持つように上手な活用をお願いしたい。
- (3) 歯と口の健康習慣について近年注目されているので、記載した方が良くはないか。

- (4) 健康寿命延伸のためには、スポーツ団体や医師会等との連携、また、部局を超えるなど多くの協力体制が大事だと考えているが、具体的な施策・事業があれば、そのような書き込みが必要ではないか。
- (5) 市民に、がん検診の受診率は「大変」低く深刻であることなど、実情を市民に伝えるとともに、受診率が低い原因についてもっと掘り下げる必要がある。
- (6) パートナーが病気になったときや亡くなったときに、料理ができないと苦勞すると思う。特に料理をしない人が多い中高年の男性が、より料理等に関心もてるような取組みをしていただきたい。
- (7) 健康づくりや食改善の取組みにおいて、子どもと中高年等が一緒に行える取組みを検討してはどうか。市民も子どもの意見は素直に受け入れてくれるのではないか。

第3章 高齢になっても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるまち

- (1) 大牟田市には介護施設や病院が充実しているが、介護人材不足が心配である。適切な対応を図っていただくとともに、外国人の受入れや IT・ロボットの活用を行っている施設があることをアピールするべきではないか。
- (2) 在宅医療・介護について広報紙などを活用した市民への啓発は進んでいないと考える。親が大牟田市内、子が大牟田市外に居住している場合なども多いと思うので、大牟田市は在宅医療・介護を利用しやすい環境であることを Facebook などを活用してアピールをした方が良いのではないか。
- (3) 2025 年問題が叫ばれる中、介護保険料の問題を含めて適正な制度運営を図られたい。

第4章 障害があっても、みんなと一緒に自分らしく暮らせるまち

- (1) オリンピック・パラリンピックを契機として、障害者スポーツに対する市民の関心も高まってくると思われる。障害のある人がスポーツに親しむた

めに、義足などの支援策はなくとも、スポーツの大会の開催情報を提供するための体制は必要。

- (2) 各地で行われている「未来の運動会」なども参考に、テクノロジーを活用し、それぞれ機能する部分を動かして参加できるような仕組みづくりに取り組まれない。
- (3) 大牟田市では盲導犬をはじめとした介助犬の情報があまり流れてこないと感じている。
- (4) 子どもが学んだことが親に広がることもあるので、子どもたちへの障害に対する理解・啓発を進めていくことは重要だと考える。これまでも車椅子体験等が行なわれているが、それ以外の新しい切り口も大切だと思う。
- (5) 障害のある人の就労について市の支援などはあるか。国の助成では全然足りないという現状である。福岡市などの取組みを参考に、大牟田市でも企業とのマッチングを行うような仕組みづくりを進めてほしい。

第5章 将来にわたり誰もが安定した生活を送ることができるまち

- (1) 保健所の県への移管は市民にとって大切なことであるため、市民への周知徹底を早めにしていただくよう配慮いただきたい。
- (2) 医療費抑制のため、疾病予防やレセプト点検が大事と考える。
- (3) 保護世帯は減っているとのことだが、大牟田市において保護世帯のうち高齢者世帯が1番多く占めているのであれば、今後保護世帯は増えていくのではないかと考える。自立支援や就労支援に向けた取組みも重要だと思う。

4編 暮らし「都市と自然が調和した快適なまちになっています」

第1章 魅力ある都市空間が形成されたまち

- (1) アンケートは設問内容によって回答を誘導できる要素もあるため、アンケート以外の評価も検討されたい。
- (2) 自然環境を守るべき場所は様々あると思うが、甘木山や三池山の登山道

整備等を視点に入れてみてはどうか。

- (3) 甘木山や三池山は竹の葉が散っているため見た目が悪く、また放置竹林も多い。これらの解決をせず自然環境のことを語ることはできないのではないかな。
- (4) 財政的問題や地権者との交渉などもあるかと思うが、狭あい道路を抱える地域への抜本的対策は必要。土地区画整理でいう換地と減歩なども有効な手段であるので、検討されたい。
- (5) まちの賑わいづくりのためには新大牟田駅周辺の賑わいを創出していくことが必要。周辺地域の開発に向けて、市の柔軟な対応も検討されたい。
- (6) 第1章の都市のコンパクト化を図ることが必要と言いながら、面的な整備がなされていない地域の市街地計画を進めていくのは選択と集中の考えから難しいのではないかな。
- (7) 第1章の視点4の更なるボランティア活動の推進について、もう少し具体的な内容をいれてはどうか。

第2章 交通ネットワークが整ったまち

- (1) 4編第4章の下水道の部分にはストックマネジメント計画の記載があるので、第2章にも橋梁長寿命化修繕計画について記載したほうが良いのではないかな。第2章と第4章の記載は、合わせたほうが良いと思う。
- (2) 自動運転を大牟田市でも取り入れてほしい。大牟田市において、テクノロジーの恩恵を受けるという視点が抜けていると感じる。
- (3) 視点3に行政、市民、交通事業者の役割分担によって公共交通網を維持・確保していくとあるが、計画案を読むだけでは、実際にそれが可能であるか疑問であり、果たして、役割分担により利便性は向上していくのだろうか不安になる。記載に工夫が必要ではないかな。
- (4) 優良農地がどのようなものか分かりやすいように用語説明があったら良いのではないかな。
- (5) 市内の橋梁（477橋）について、5年に1回の点検が終わっているなら

ば、視点の中でそのことも表現してもいいのではないか。

- (6) 市内の公共交通は人口の 81%をカバーしており、非常に高い利便性である。このことはもっとアピールして、本数が足りないなどの不満と運営に要するコストとのバランスをとるための表現を記載してもいいと思う。
- (7) 道路管理面に関し、安全パトロール(土木担当職員)・郵便局員・市役所職員で市内へ出る人などのネットワーク化を図ること検討してはどうか。アプリ等を活用し、損傷箇所の位置情報や写真などを共有するシステムをつくることも可能だと考える。

第3章 人にやさしい住まい・住環境が形成されたまち

- (1) 古い市営住宅には高齢者の一人暮らしが多い。団地内のコミュニティのことを考えると、高齢者をひとつの団地にまとめることはできないか。
- (2) 視点2の空家対策に係る関連団体との連携について、もう少し具体的な状況を記載してはどうか。
- (3) 視点3の一人暮らしの高齢者の安否確認について、新しくコストのかからない方法もあるので検討してはどうか。

第4章 地球や自然を大切にすまち

- (1) 動物の入手経路と虐待などの因果関係について、原因の調査・考察を行ったうえで適正飼育や終生飼養を推進すると思う。
- (2) 大牟田市は竹林や山など荒れているところが多く、登山道がなくなっているところもある。視点1に「エコ行動を実践しライフスタイルを変えていくための啓発をする」と記載されているので、行政としても何か対応を考えていただきたい。
- (3) 温暖化というよりは寒暖二極化が進んでいるように感じている。このような考え方を持つ人がいることを頭に入れておいてほしい。
- (4) 水は雨が降って海へと流れていくもの。本章には水や川の話も含まれているが、山や海という視点もあるといいかと思う。

- (5) 日本は昔から炭をつくるという手法で固定化を行ってきた。植物に炭酸ガスを吸収させ、それを炭にすることで半永久的に固定化でき、川や海に入れば浄化してくれる。例えば市が炭を買い取るなどの対応をすれば、それを契機に山を持っている人は竹を切って炭をつくるのではないか。炭酸ガスの固定化については市で検討してほしい。
- (6) 下水の普及について、現在個人での設備にて自然に対応できる設備もあるので、無理に普及を進めずに、柔軟な対応と施設設備のコストと利用者数が望めない地区では割り切りも必要ではないかと思う。

第5章 資源が循環する環境にやさしいまち

- (1) 生ごみの堆肥化というのは腐敗させているだけであり、環境によくないと考える。竹堆肥を活用すれば生ごみの堆肥化も可能と考える。専門家の意見も聞いて、研究してほしい。
- (2) ごみ処理基本計画を策定予定ならば、少し記載してはどうか。ごみ処理施設の建設や埋立地の延命化の面からも、ごみ減量は課題と考えられる。

5編 あんしん「安心して安全に暮らせています」

第1章 事故や犯罪のない安心して暮らせるまち

- (1) 視点2の防犯活動の充実で、大牟田保護区保護司会をはじめとするボランティア活動を支援しますと記載されているが、具体的な姿が見えない。現場レベルでの施策が見えてこないなので、具体が見えやすくなるようにしていただきたい。
- (2) 安心安全まちづくり協議会の設置や暴力団追放総決起集会などをされているが形式的なものになっているような気がする。安心して過ごせるように、暴力団排除に向けて取り組んでいただきたい。
- (3) 子ども見守り隊について、非常にありがたく尊敬している。子どもたちの心の育みにも貢献していると思う。ただ、見守り隊の高齢化が進んでおり、

引き継ぐ相手がいないと嘆いておられたので、何か仕組みづくりはできないか。

第2章 災害に強いまち

- (1) 災害時のことを考え、災害拠点としての庁舎整備や、避難所である地区公民館への貯水設備等の設置について、引き続き検討をお願いしたい。
- (2) 災害時は、生活物資の不足などが想定されるため、そこへの対応等も含めて、今後も引き続き近隣自治体等との応援体制について考えられたい。
- (3) 避難所の水道設備やバリアフリー化など、避難所生活がなされることを想定し、最低限の水準はクリアするようにしていただきたい。
- (4) 施策の各視点が命を優先すること大事にすることと繋がっていることは理解できるが、この施策の中に「命」という言葉は出てきていないため、表現について検討されたい。
- (5) 救助活動は大切だが、消防団員等の救助者の生命も大切。災害時の対応について、時代の変化に合わせた対応をお願いしたい。
- (6) 防災のための情報発信に向け、愛情ねっとや FM たんとの活用のみならず、更なる充実に取り組みされたい。

第3章 消防・救急・救助体制の充実したまち

- (1) 消防団の女性団員も火災現場に出動している。女性でも出来ることはあるため、もっと女性が消防団に入ると良い。しかし、女性消防団について、女性の理解度はまだまだ浅い。次期総合計画では女性団員についても記載するなど、「女性団員」について、よりPRをし、充実していく姿勢を出してほしい。
- (2) 救急車を呼ぶべきか、病院へ行くべきかといった悩みがある際に、「#7119」や「Q助（きゅうすけ）」を利用することは良い取組み。市民や医療機関へもっと啓発していただき、広めていただきたい。
- (3) 消防団については、昨今は火災対応のみでなく、自然災害の対応等が増

えている。資機材の充実や資機材を充実した後の訓練についても、施策に記載するなど、しっかりと対応してほしい。

第4章 安全で良質な水があるまち

- (1) 水はなくてはならない大切なライフラインの一つである。断水の経験を活かした広報活動や検査業務など、通常から尽力いただいているが、今後もよろしくお願ひしたい。

計画の実現に向けて

第1章 市民と行政がともにまちづくりを進めます

- (1) 校区まちづくり協議会については総括の上、今後のあり方について考える必要がある。
- (2) 視点の3、4の人材育成・発掘について、そのような人材を求めるのか理想像を明確に示してはどうか。福岡市の市民まちづくり研究員なども参考にされたい。
- (3) 校区まちづくり協議会は市民に運営をまかせる形であろうと考えるが、設立から自立という流れの中に「若返り」というテーマを入れておかないと、年長者がずっとやり続けなければならなくなる。

第2章 地域の魅力を積極的に発信します

- (1) 現況と課題に動物園に関する記述が盛り込まれていない。全国メディアにも頻繁に取り上げられる施設であり、ここに記載すべきではないか。
- (2) 現況と課題にアウトプロモーションについて記されているが、もっとアウトプロモーションを強化してもらいたい。
- (3) 大牟田市はシティプロモーションが下手だと聞いている。新たなモノ・コトをつくったら、広報紙やホームページに掲載するだけで、それだけでは情報が市民に行き届いていないのではないか。

- (4) 新しいモノ・コトを広げるのであれば、市外、近いところでは福岡市に出向いて PR していかなければならないのではないかな。もっと企業やメディアを活用したシティプロモーションを推進していくべきではないかな。
- (5) 他市では小さなことでも市長が積極的に露出している。市民の代表である市長がもっとメディア露出すべき。
- (6) 対外的発信方法を他の都市から学ぶ必要があると思う。

第3章 健全で効果的・効率的な行財政運営を進めます

- (1) 人材育成及びそれに連動する人事評価に関する取り組みについて、具体的な成果をもとに、仕事に生き生きと取り組む職員をより多く育成する観点から進めてほしい。
- (2) 大牟田市全体として、新しいことへの挑戦が持続可能性につながると思う。人材育成として、新しいことへの挑戦が評価される仕組みが重要。
- (3) 市の職員の年齢構成が 40～50 代が 80%とのことであるならば、これを好機と捉え、何をどう補うか方法を考えて進めなければ、残った人が苦勞するだけなので、AI や IoT 等を活用してやっていくべき。
- (4) 生産性の向上は課題。AI や RPA の活用による業務効率化について、民間からアドバイスを受けるべきだと考える。
- (5) これから財政が厳しくなっていく中で、まち全体として収入源を増やし、稼ぐまちとして挑戦し続ける視点を、今後 4 年間組み込む必要がある。SIB は現在大牟田市で 1 事業取り組まれているので、そういった取り組みを積極的に行ってほしい。
- (6) 自主財源の確保にはふるさと納税が有効だが、本気でやっているように思えない。他都市の実績をみると、今の流れから完全に乗り遅れている状況。

第4章 行政サービスの利便性を高めます

- (1) 庁舎の建替えは、使い勝手はもちろん地震対応も考えておかないといけない。財政面もあり難しいとは思いますが、防災における活動拠点の整備を図る

ことも重要である。

- (2) 庁舎のバリアフリーの状況について、障害のある人には待たなしの状況。短期的な対策をどう考えているか。インターホンやエレベーターの設置箇所、雨のときにも対応できるよう、北別館1階に専用駐車場があることを市民にわかりやすい周知をお願いしたい。
- (3) 窓口サービスの向上に向けた取組みやICTを活用した情報化の推進など、行政手続きの利便性を高めるのはいいこと。本計画の期間内にどこまで進めるという数値目標を持って進めてほしい。